

第46回ぴあフィルムフェスティバル2024



会 期：2024年9月7日（土）～21日（土） オンライン配信は10月31日（木）まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：（一社）PFF／（独）国立美術館 国立映画アーカイブ／（公財）川喜多記念映画文化財団／（公財）ユニジャパン
 後 援：（特非）映像産業振興機構／（協組）日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/46th/

総来場者数（参加数）：7,023人／前年比99%
 （リアル参加：5,216人／前年比111%、オンライン視聴：1,807人／前年比75%）
 プレス社数：新聞社：10／通信社：1／雑誌：4／WEB：24／テレビ：1／ラジオ：3

■開催内容

●自主映画コンペティション「PFFアワード2024」

全国から応募された自主映画692本（前年比+135本）の中から選ばれた入選作品19本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた川島佑喜監督の『I AM NOT INVISIBLE』をはじめ、合計8作品が受賞した。
 最終審査員：小田香（フィルムメーカー／アーティスト）、小林エリカ（作家／アーティスト）、高崎卓馬（クリエイティブ・ディレクター／小説家）、仲野太賀（俳優）、吉田恵輔（映画監督）

●生誕100年・増村保造新発見！～決断する女たち～

黄金期の大映を支えた増村保造監督の生誕100年を記念し、監督デビュー作『くちづけ』をはじめ、13本を特集上映。増村映画のヒロインを演じた『盲獣』の緑魔子、『大地の子守歌』の原田美枝子、『曽根崎心中』の梶芽衣子をはじめとする多彩なゲストを迎え、才人・増村監督の魅力を改めて検証した。

●自由だぜ！80～90年代自主映画

PFF草創期からの自主映画の歴史を振り返る特集の2年目。今回は1980～90年代のPFF入選作品の中から、『気分を変えて？』『ORANGING'79』など伝説の8ミリ映画13本と、16ミリ映画2本をデジタル化して上映。犬童一心監督、今関あきよし監督、樋口尚文監督、古厩智之監督ら、8名のゲストが、当時は振り返りながら貴重なエピソードを披露した。

●中村靖日さんを偲んで

2024年7月に51歳の若さで急逝した名優・中村靖日を偲び、PFFアワード1994グランプリ受賞作『寮内厳粛』、PFFスカラシップ作品『運命じゃない人』などを上映。内田けんじ監督、俳優の山中聡、霧島れいからが、撮影時の思い出などを語った。

●第28回PFFスカラシップ作品『道行き』お披露目

『おぼけ』で、PFFアワード2019グランプリを受賞した中尾広道監督の長編デビュー作『道行き』を完成披露上映。主演の渡辺大知と監督のトークを行った。

●PFFスペシャル映画講座

ジム・ジャームッシュ監督作品のポスターで有名なグラフィック・デザイナー、大島依提亜と、ブロードキャスター、ピーター・バラカンを講師に、映画のデザインと音楽映画に関する上映と講座を行った。



国立映画アーカイブロビー



PFFアワード受賞監督と最終審査員

第46回ぴあフィルムフェスティバル2024



●はじまりの映画 ～創るよろこび、観る驚き～

リュミエール兄弟による初期短編集や、セルゲイ・M・エイゼンシュテイン監督の『戦艦ポチョムキン』など、クラシックの名作を上映した。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

増村監督特集においては、U-NEXTで配信中の作品とも連携して相互宣伝を行った。映画祭でしか観ることができない作品と、オンラインで観ることができる作品を合わせて、より多くの増村作品に出合うことができる機会を創出した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

①「第37回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2024」グランプリ受賞作品『I AM NOT INVISIBLE』、審査員特別賞受賞作品『松坂さん』『END of DINOSAURS』の3本を上映し、3監督との質疑応答を実施した。



『大地の子守歌』の原田美枝子と鶴岡恵子監督



『運命じゃない人』の山中聡、霧島れいか、内田けんじ監督



『道行き』の中尾広道監督と渡辺大知